

聴覚障がいのある児童生徒の適切な実態把握の在り方に関する研究

現状と課題

【平成30年度教育室研究で明らかになった課題】

- 聴覚障がいによる二次的な困難さによるものか、発達障がいによる困難さによるものかを正確に見極め、配慮の在り方を考えることが難しい。

【各学校の取組の現状と課題（研究発表より）】

- 客観的な指標や検査等へ言及した取組は少数である。
- 教員による行動観察や教員間の話し合いにより、実態把握を行っている事例が多い。

目的

- 聴覚障がいのある児童生徒の実態把握について、聴覚障がい教育及び発達障がい教育等の専門性の視点などから整理し、まとめることで、本道における指導や支援の改善・充実に向けた取組を支援することができるよう取り組む。

○ 「適切な実態把握の在り方をテーマにした特別支援学校専門コース（聴覚障がい教育部会）の実施

※当センター所員及び外部講師による実態把握の考え方や実際についての講義

※受講者を対象としたフォローアップ研修の実施



【教員の状況】

- ・聴力の状況の把握が難しい。
- ・諸検査の適切な実施、活用方法が分からない。
- ・児童生徒の実態把握が主観的なものに偏りがちである。
(2019年度特別支援学校専門コース（聴覚障がい教育部会）事前提出資料より)

取組の具体

○ 幼児児童生徒の実態をより容易かつ正確に把握することのできる「アセスメントシート」の作成

チェックリストによる「気になる点」の把握

- ①聴覚障がいの状態
- ②発達の程度
- ③言語発達の程度
- ④言語概念や読み書きの力

(例) 補聴器等装用下において、特定の語音を聞き返すことが多い。

(例) 当該学年の説明文の内容を理解することが難しい。

具体的な実態把握の方法の提示

(例)

- ① 聞き返しの多い語音とオーディオグラムの関係について、数値を記入し視覚的に示す。
- ④ 語い力及び読書力について把握する方法（検査等）を示すとともに、数値を記入する欄を設け、確認しやすいように示す。

【取組を通して分かったこと】

- ・適切に実態把握を行うことの重要性について、これまで以上に理解を深めていく必要がある。
- ・聴覚障がいの状態と発達の状況との関連性を踏まえた合理的配慮の提供や、指導や支援の改善・充実へつなげていく必要がある。

今後の方向性

- ①アセスメントシート(試案)の作成及び道立聴覚障がい特別支援学校での検証
- ②アセスメントシートの項目の見直し及び改善
- ③道内全ての聴覚障がい特別支援学校でのアセスメントシートの活用

北海道立特別支援教育センター

〒064-0944 札幌市中央区円山西町2丁目1-1

(011) 612-6211